

追手門学院大学オーストラリア研究所 公開研究会
オーストラリア学会 第8回地域研究会(関西例会)
ジョイント・セミナー

<オーストラリアの太平洋戦争>

【日時】2009年3月14日(土)13:00~17:00

【場所】追手門学院大学 5号館8階 大会議室

【13:00-14:00】追手門学院大学オーストラリア研究所 公開研究会

“A Lesson for the World: Australia and Japan during the Second World War”

(世界への教訓:第二次世界大戦中のオーストラリアと日本)

Professor Kate Darian-Smith, The University of Melbourne

ケイト・ダリアンスミス (メルボルン大学)

※本研究会は豪日交流基金サー・ニール・カーリー奨学金の助成を受けています。

【14:00-17:00】オーストラリア学会 第8回地域研究会(関西例会)

「デーミアン・ペアラーのニュース映画の中の日本兵」

田村恵子(オーストラリア国立大学・オーストラリア戦争記念館・京都大学人文科学研究所客員研究員)

「ダーウィン爆撃のコメモレイション:追悼と顕彰」

鎌田真弓(名古屋商科大学)

【発表要旨】

〔田村恵子〕デーミアン・ペアラーは、第2次大戦中に豪軍従軍カメラマンとして活躍し、数多くの劇場用ニュース映画を撮影した。特に1942年に制作された「ココダ前線」は、翌年にオーストラリア初のアカデミー賞を受賞した。今回の発表では、ペアラーがニューギニア戦を撮影したニュース映画を題材として、その中で日本兵がどのように語られ表象されているかを検討し、戦闘が激しくなるにつれて、それがどう変化していったかを考察する。

〔鎌田真弓〕昨年6月豪連邦政府はBattle for Australia Dayを制定した。11月に公開された映画「オーストラリア」(日本では今年2月)でも衝撃的な歴史の1コマとして描写されているように、ダーウィン爆撃はオーストラリア国民の受難を象徴する出来事として認識されている。本報告では、ダーウィン爆撃追悼式(2月19日)に焦点をあてて戦争の「記憶」の変容を考察したい。

【大学へは】JR 茨木駅西口南へ7分マイカル茨木横、および阪急茨木市駅西口から
追手門学院スクールバス(無料)ともに12:15、13:10発。

※ オーストラリア学会の会員でない方、学生・大学院生も参加できます。



【問合せ・申込先】追手門学院大学 オーストラリア研究所
〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15
Tel:072-641-9667 Fax:072-643-9476
E-mail:cas@office.otemon.ac.jp